第２学年算数科学習指導案

２年２組　指導者　岡本貴裕

単　元　　かけ算の可能性

１　本単元で子どもが創出と受容、転移を行う各教科等の本質（見方・考え方）

まとまりで捉える（まとまりを見付ける、まとまりをつくる）

２　本単元（題材）で、各教科等の本質（見方・考え方）の創出と受容、転移を行っている子どもの姿

本学級の子どもたちは、乗法の意味について考えたり、乗法の意味に基づいて乗法九九を構成したりする学習に取り組んできた。このような子どもたちが、乗法九九の表から乗法に関して成り立つ性質などを見いだしたり、具体的な場面を乗法の式に表したりする学習に取り組む。さらに、本単元では、九九を超える乗法の場面や第３学年乗法の筆算、第４、５学年で扱う面積の学習等の先の学習への転移の可能性も探りたい。

子どもたちは、乗法の意味に基づき、乗法九九のそれぞれの段を構成し、唱え方を記憶することによって乗法を習得していく。習得してきた乗法九九を進んで活用しようとする態度を養うためには、乗法のよさを感じ取ることを大切にしたい。そこで、本単元では、乗法九九の表から乗法に関して成り立つ性質などを見いだしたり、パズル遊びという具体的な場面から乗法の式に表したりすることで、乗法の面白さや有用性を感じ取ることができるようにする。特に、パズル遊びを扱った学習では、完成したパズルの形から、自らまとまりを見付けたり、つくったりして、乗法の式に表していく。その過程を振り返ることで、「まとまりで捉える」見方を自覚化させたい。そうすることで、これから先の生活や学習の場面において、習得してきた乗法九九を進んで活用しようとする態度を養うことにつながると考える。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

○　常時活動として９マスパズルを行う。そうすることで、自然とまとまりを見付けたり、つくったりすることができるようにする。【創】

○　乗法の式やパズルの操作に対して理由や意図を問い返したり、乗法の式に表した過程を振り返るよう促したりする。そうすることで、具体的な場面を乗法の式に表す際に、まとまりで捉えていることを自覚できるようにする。【受】

○　九九の範囲を超える場面について考えるよう促す。そうすることで、自覚的にまとまりを見付けたり、つくったりして、乗法の式に表すことができるようにする。【転】

３　本単元の目標

○　具体的な場面をまとまりで捉えることで、乗法の式に表すことができるようにする。

○　乗法のよさを感じ取り、習得してきた乗法九九を進んで活用しようとする態度を養うことができるようにする。

４　本単元における評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ○乗法に関して成り立つ性質について理解することができる。	○数量の関係に着目し、乗法に関して成り立つ性質などを見いだしたり、日常生活に生かしたりすることができる。	○乗法のよさを感じ取り、生活や学習場面において、乗法を進んで活用しようとしている。

５　指導計画（全４時間）

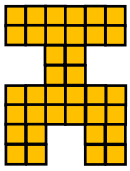
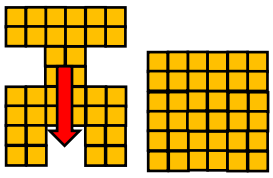
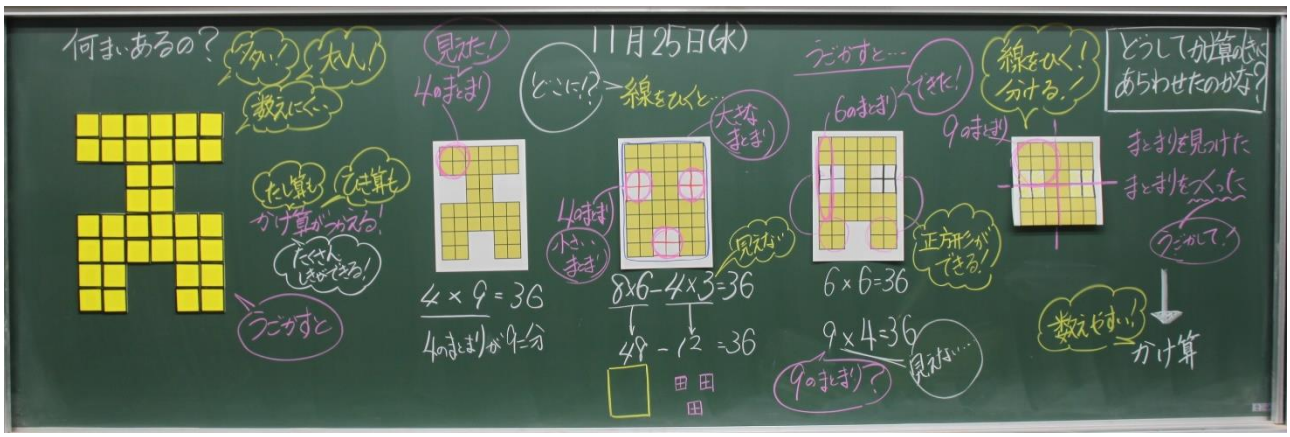
第１次　乗法九九の表からきまりを見付ける（２時間）

第２次　具体的な場面をまとまりで捉え、乗法の式に表す（２時間）【本時１／２】

６　本時案　　【令和２年１１月２５日　９：３０～１０：１５　多目的ルーム】

（１）ねらい　　パズルのマスの総数を数える活動をとおして、まとまりを見付けたり、つくったりして、乗法の式に表すことができるようにする。

（２）学習過程　※一重下線は創出、二重下線は受容、破線は転移に対応する子どもの意識

学習活動・学習内容	子どもの意識	○教師の支援
１　構成したパズルのマスの数え方を考える。 （35 分） ・まとまりを見付けること ・まとまりをつくること ・乗法の式に表すこと   ２　乗法の式に表した過程について振り返る。 （10 分） ・「まとまりで捉える」見方の自覚化	・バラバラのマスがたくさんあって数えるのが大変だな。 **パズルのマスは何枚あるのかな** ・あ、かけ算の式に表すことができるよ。 Ａどんな式に表すことができたのかな。 Ｂわたしは、４×９の式に表したよ。 どうして、その式に表すことができたのかな。 ・４のまとまりが９個分見えたから、４×９に表したのだよ。 Ｃぼくは、８×６－４×３の式に表したよ。 ・え、どこに８のまとまりや４のまとまりが見えたのかな。 ・分かったぞ、大きなまとまりから小さなまとまりを引いたのだね。 ・マスを動かすと、違う式にも表せたよ。 Ｂ本当だ。６×６の式に表せそうだよ。 ・６のまとまりが６個分見えるからだね。 ・Ｃくんは、９のまとまりが見えたのだって。９のまとまりを見付けるぞ。 Ａすごい、９×４の式にも表せるね。 ・マスの数は、全部で 36 枚だよ。 ・かけ算九九の式を使うと、たくさんの式に表すことができたよ。 ・まとまりを見付けると、かけ算の式に表すことができるのだね。 ・自分でまとまりをつくると簡単にマスの数を数えられることも分かったよ。	○９マスパズルを基にした凸型と凹型を組み合わせた形を構成後、マスの総数を問う。そうすることで、まとまりを見付けたり、つくったりすることができるようにする。【創】 ○子どもの表した式や操作に対して、理由や意図を問い返す。そうすることで、具体的な場面を乗法の式に表す際に、まとまりで捉えていることに気付くことができるようにする。【受】 ○乗法の式に表すことができた理由を問い、板書を基に振り返るよう促す。そうすることで、「まとまりで捉える」見方を自覚することができるようにする。【受】

（３）板書計画